

社問題

總罷業以來従業員が種々組合加入の調印をなすに對し木村某を中心に永年勤続者、並組合反對者を以て覺生會を組織し之を加入の調印を取り現在四百名を獲得せり組合側従業員に在りてはこれを會社側の切崩策なりとして反論ピラを撒布し双方對立の状態に在りたるに前記十月九日組合側代表が會社との會見を終へ引揚げんとする際覺生會木村某外十數名が組合側の撒布せるピラに抗議を申込み不慮の衝突に立至つた爲警察當局立會の下に双方代表四名を會見せしめたる所、覺生會側は會社より金銀を貰つて云々と組合側が悪宣傳をしてゐるに對し其の事實を示せと迫り組合側は吾々の運動を覺生會側が社會主義共産主義なりと宣傳した理由を示せと双方激論に終結し遂に内訌表面化するに至つた。

三、組合側従業員の解雇表

會社側に在りては解決事項に就て除々に實施しつつあるに拘らず組合側従業員が執拗に迫り且つ上司に對し不當の言動あるを以て遂に重役會に於て社規を紊すものなりとて十月十九日午後十二時頃之等中心人物三十一名に對し夫々解雇の電報を發し翌二十日朝各請所に解雇の告示をなしたり。

かくて會社側は萬一に備へる可く各車庫並請所に立入禁止の札を揚げ一般従業員には罷擧を請む種告示すると共に西倉町百々地、今川橋、馬出等に従業員を宿泊待所せしめ總体組合側との會見を拒否するの態度に出たり。

四、組合側従業員の態度

電報にて解雇通知を受けたる組合加入の従業員は極度に憤激し直ちに市内向田町被解雇者飯田茂方を筆頭團本部として鳩